

新型コロナウイルスワクチンを考える

～ノーベル賞受賞技術の光と影～

新型コロナウイルスワクチン後遺症

患者の会 代表 木村さん

幹部 神谷さん



●日時: 2024年1月23日(火) 13時00分～90分間

●場所: 薬学部宮田ホール

Zoom 同時配信 (ID: 851 7564 9559, PW: 717273)

●みなさまの聴講を歓迎します

2020年から全世界を襲った新型コロナウイルス感染症。緊急事態に史上初めて mRNA がワクチンとして緊急認可、全世界で使用され、日本人の80%以上が接種しました。その技術は2023年ノーベル医学・生理学賞に輝きました。一方、新型コロナウイルスワクチンにも当然ですが副作用があり、2023年11月時点で377人の死亡を含む5357例の重い副作用が認定され、さらに3000人以上が審査中の状況です。社会防衛のためにワクチン接種を進めるのであれば、副作用被害は、社会のための犠牲で、本来、最優先で補償されるべきだと考えますが、現状は異なるようです。本講義では、実際に副作用で苦しみ、現在の制度の問題点に直面し、社会を変えたいと考えている方から直接お話をお聞きし、医療・薬学を学ぶ者として、どのようにするべきかを、みなさんと考えたいと思います。

お問い合わせ: 神経薬理学・桑まで kume.kazuhiko@gmail.com